

第2回 安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会

日時：令和6年5月24日（金）
午後6時から午後7時45分
会場：池田町交流センターかえで

次第

- 1 開 会
- 2 県教育委員会あいさつ
- 3 新構成員紹介
- 4 会議事項
 - (1) 第1回安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会まとめ
 - (2) 高等専門学校、高等学校専攻科について
 - (3) 総合技術高校について
演題：これからの高校を考える
講師：鳴門教育大学 教員養成DX推進機構長
大学院学校教育研究科特命教授 藤村 裕一 先生
 - (4) 質疑応答及び意見交換
- 5 その他
次回の予定
【日時】 令和6年7月頃（予定） （開始時間調整中）
【場所】 （調整中）
【内容】 各校生徒による学校・学びの紹介（予定）
- 6 閉 会

安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会構成員名簿

令和6年度

（敬称略）

	区分	氏名（座長◎）	所属等	役職等
1	自治体	中山 栄樹	安曇野市	副市長
2		矢口 稔	池田町	町長
3		橋渡 勝也	安曇野市教育委員会	教育長
4		山崎 晃	池田町教育委員会	教育長
5	産業界	高橋 秀生	安曇野市商工会	会長
6		栗原 裕	J Aあづみ	総務開発事業部長
7		宮崎 鉄雄	池田町商工会	事務局長
8		小坂 喜康	J A大北	総務部総務課長
9	学識経験者	◎宮崎 樹夫	信州大学	副学長（教育企画・戦略担当）
10	地域	斉藤 岳雄	有限会社 斉藤農園	専務取締役
11		石井 克則	黒田精工株式会社	専務取締役・工場長
12		深澤 大輔	株式会社 大王（大王わさび農場）	代表取締役
13		宮島 克夫	松本地域振興局	局長
14		斎藤 政一郎	北アルプス地域振興局	局長
15	同窓会	笠井 明	南安曇農業高等学校同窓会	同窓会長
16		山崎 完好	穂高商業高等学校同窓会	同窓会長
17		宮澤 敏文	池田工業高等学校同窓会	同窓会長
18	P T A	岩淵 かつ子	南安曇農業高等学校 P T A	P T A 会長
19		小岩 未佳	穂高商業高等学校 P T A	P T A 副会長
20		大出 敏弘	池田工業高等学校 P T A	P T A 会長
21		小松 公平	安曇野市 P T A 連合会	会長
22		宗川 尚美	大北 P T A 連合会	会長
23	小中学校等関係者	赤羽 文恵	安曇野市校長会（穂高東中学校長）	校長会長
24		中原 敏	北安曇校長会（美麻小中学校長）	校長会長
25		山岡 勝則	安曇養護学校	校長
26	再編対象校	忠地 凌空	南安曇農業高等学校	生徒会長
27		出水 和歌	南安曇農業高等学校	生徒会副会長
28		北原 邦俊	南安曇農業高等学校	校長
29		今溝 秀雄	南安曇農業高等学校	教職員
30		小沢 伸二	穂高商業高等学校	生徒会長
31		市東 花衣里	穂高商業高等学校	生徒会副会長
32		三宅 浩一	穂高商業高等学校	校長
33		川上 忠志	穂高商業高等学校	教職員
34		中山 蓮斗	池田工業高等学校	生徒会長
35		北澤 凌雅	池田工業高等学校	生徒会副会長
36	武居 正憲	池田工業高等学校	校長	
37		岩原 昌孝	池田工業高等学校	教職員

【事務局】

学校名	氏名（役職等）
南安曇農業高等学校	（教頭） 本山 義治
	（教諭） 加藤 慎一郎、榛葉 亨、中田 貴子、山崎 健悟
穂高商業高等学校	（教頭） 橋本 徹
	（教諭） 浅見 大輔、有賀 詩織、川上 忠志、酒井 慎也
池田工業高等学校	（教頭） 山口 秀樹
	（教諭） 伊藤 満、犬飼 雅樹、岩原 昌孝、勝野 学

	氏名	所属等	役職等
県教育委員会	井出 敦	高校教育課 高校再編推進室	主幹指導主事
	高橋 正俊	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	内山 みのり	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	原 周一郎	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事

第1回 安曇野総合技術新校(仮称)再編実施計画懇話会まとめ(案)

日時	令和6年1月15日(月) 午後6時から午後7時30分		
場所	安曇野市役所 4階 大会議室		
出席 (敬称略)	中山栄樹、甕 聖章、橋渡勝也、山崎 晃、佐野訓久(代理)、相馬和揮衛、宮崎鉄雄、小坂喜康、宮崎樹夫、斉藤岳雄、石井克則、深澤大輔、宮島克夫、早川恵利、笠井 明、山崎完好、宮澤敏文、中川雅能、青柳賢二、中山千並、小松公平、関 悟志、濱野 久、吉沢一夫、松嶋則行、忠地凌空、出水和歌、北原邦俊、今溝秀雄、市東花衣里、有賀 浩、中山蓮斗、北澤凌雅、武居正憲、岩原昌孝(以上35名)		
欠席 (敬称略)	小沢伸二、川上忠志(以上2名)	傍聴	22名、報道5社、オンライン7名
事務局	南安曇農業高校	本山教頭、今溝教諭、川上教諭、榛葉教諭、中田教諭	
	穂高商業高校	三宅教頭、酒井教諭、浅見教諭、川上教諭、西牧教諭	
	池田工業高校	江尻教頭、岩原教諭、荒井教諭、伊藤教諭、勝野教諭	
	県教育委員会	宮澤高校再編推進室長、中島主幹指導主事、有坂主任指導主事、井出主任指導主事	
当日資料	次第、構成員名簿、席図、会場案内、開催要綱、今後のスケジュール(案)、パワーポイント資料		

会議事項

- (1) 座長選出 ◎宮崎樹夫構成員を座長に選出
- (2) 「高校改革～夢に挑戦する学び～」(県教委より説明)
 - ① 「実施方針について」
 - ② 「再編・整備計画【三次】」
 - ③ 安曇野総合技術新校(仮称)の学校像(例)
- (3) 質疑応答及び意見交換

構成員から出された主な質問・意見(要旨) (→県教委回答)

- ・今の学校を存続させたい気持ちはあるが、農工商を学ぶことで予測できない未来に対応できる人材を育てていくことはメリットが大きいと思うので前向きに捉えたい。
- ・総合技術高校は学科同士の交流や学校の活性化につながると思うので先進的で時代に合っている。
- ・農工商を1つにすることで幅広く学ぶことができ、進路選択の幅が広がる点に魅力を感じる。
- ・農工商の専門学科が一緒になっても複雑化する産業に対応した人材の養成は難しいと感じる。専門科の学びは高校3年間では足りない。他の分野まで学ぶことは現実的ではなく、中途半端に終わるのではないか。
- ・学校数を減らすことを考えるのであれば、南安曇農業高校と豊科高校との統合は考えられないか。
- 統合校の枠組みについては様々なプロセスを経て決定した。本懇話会では該当3校を統合した学校づくりについて意見交換したい。
- ・専門性を高めるため県立高専の設置は考えられないか。
- 「特色ある県立高校づくり懇談会」の中で構成員から県立高専設置という意見はいただいている。高等専門学校は高等教育機関であり教育委員会が設置するものではないが、今後の議論を妨げるつもりはない。まずは総合技術高校でどのような学校像をつくりあげていくか意見交換する中で一緒に考えたい。
- ・活力ある専門教育を行う観点から、専門性を高めるために専攻科をつくるという考え方もある。
- ・地域全体で多くの人が同じ方向を向き、未来を創る子どもたちが学ぶにふさわしい環境づくりに英知を結集したい。
- ・未来の子どもたちにどのような高校教育を用意すべきか、それぞれの高校が培ってきたものを新校に繋げ、活かせるよう考えたい。
- ・DXの時代と言われるが、最近GX(グリーントランスフォーメーション)、SX(サステナビリティトランスフォーメーション)という言葉もあり、その意味から今後農業・工業・商業の全ての学びが必要になると思われる。

その他

【次回】

日時：令和6年5月下旬 午後6時から午後7時30分
 会場：未定
 内容：総合技術高校の先進事例等の講演(予定)

高等専門学校（高専）について

高校教育課 高校再編推進室

1 概要

高等専門学校とは、実践的・創造的技術者を養成することを目的とした高等教育機関。

5年一貫教育で技術者に必要な専門知識とそれを応用する力を身につけるため、理論だけでなく実験・実習に重点を置く。

設置学科は、例として工業系、商船系、情報系、経済・流通系学科がある。

※卒業すると準学士と称することができ、専攻科まで修了すると学士の学位を取得できる。

2 県内の状況・全国との比較

県内の状況 国立1校 長野工業高等専門学校（長野市） ※県立高専はない

- ・工業科（情報エレクトロニクス系、都市デザイン系、機械ロボティクス系）
- ・募集定員と平均倍率： 毎年200人、1.55倍（H19～R5）
- ・進学就職率：毎年ほぼ100%（卒業生一人に対し、29.6倍の求人倍率）
- ・学生寮あり（収容定員544名） ※これらの情報は、長野高専のホームページより引用

全国の設置状況 58校（国立:51 公立:3 私立:4） R5現在

複数ある都道府県（多くが国立）

- 北海道4校（工業4）
- 三重県3校（工業1、商船1、私立工業1）
- 山口県3校（工業2、商船1）
- 東京都3校（工業1、都立工業1、私立工業1）
- 兵庫県2校（工業1、私立工業1）
- 広島県2校（工業1、商船1）
- 徳島県2校（工業1、私立工業1）
- 愛媛県2校（工業1、商船1）
- 福岡県2校（工業1）

高専がない都道府県

埼玉県、神奈川県、山梨県、佐賀県、滋賀県

私立の特色例

- ・国際高等専門学校（石川県） 工業科 英語で学ぶ全寮制＋金沢工業大学・大学院と連携
- ・神山まるごと高専（徳島県） 工業科 専門技術＋起業家精神 全寮制 学費実質無料

全国の公立高専の事例

	定員 (R5)	倍率 (R5)	都府県内の 他の状況
東京都立 産業技術高専	256	1.73	国立1校 私立1校
大阪公立大学 工業高専	選抜 80 学力 80	1.85 1.63	なし
神戸市立 工業高専	240	1.7	国立1校

3 高等専門学校の立ち位置



1. 中学校卒業段階の学生が入学
2. 高校卒業者は高専への編入資格がある
3. 高専卒業者は大学への編入の資格がある
4. 高専卒業者は高専の専攻科に進学する資格がある
5. 専攻科を修了して「学士」を得た者は、大学院への入学資格がある
(国立高等専門学校機構のホームページより)

4 県立高専設置の効果

- ・5年一貫教育による専門技術者の育成
- ・県内に高専が2校となり、学生の選択肢増
- ・地元企業からのニーズや期待に応えられる
- ・卒業生は、大学に3年次編入できる

5 県立高専設置にあたっての課題

- ・一定数の入学生を確保できるか
- ・施設整備に係る費用負担（施設・設備はどのような学びを行うかによる）
- ・教員の確保（専門科目、一般科目ともに博士、修士の学位を持った教員が主体）
- ・設置場所となる地域産業界のニーズの把握と、学校設置に関する理解

高等学校専攻科について

高校教育課 高校再編推進室

1 概要

高等学校専攻科とは、高校卒業者（もしくはそれと同等以上の学力を有する者）を対象に、より高度な教育を行うために設けられた課程。高校 3 年間だけでは取れない国家資格の取得を目指したものが多く、全国的には、看護系・水産系の専攻科が多く設置されている。工業系高等学校専攻科では、企業での即戦力として活躍できる人材の育成を目指している。

修業年限は 1 年以上と法律で定められているが、平成 28 年 4 月から 2 年以上一定の基準を満たす課程を修了すると大学への編入学が可能となった。

2 県内の状況・全国との比較

県内の状況 長野県には高等学校の専攻科はない

全国の設置状況 (令和 5 年度 文部科学省 学校基本調査 単位：校)

「専攻科」学校数	全国合計			公立			私立		
		本校	分校		本校	分校		本校	分校
	135	132	3	68	66	2	67	66	1
全日制	122	120	2	56	55	1	66	65	1
定時制	2	1	1	2	1	1	-	-	-
併置	11	11	-	10	10	-	1	1	-

全日制・定時制及び併置の区分は、本科の全日制・定時制及び併置の区分によって分類

公立の設置状況

北海道 6 校 (看護 2、水産 2、農業 2)	三重県 3 校 (看護 1、水産 1、工業 1)
青森県 2 校 (看護 1、水産 1)	兵庫県 2 校 (看護 2)
岩手県 3 校 (水産 1、工業 1、農業 1)	奈良県 2 校 (工業 2、福祉 1)
宮城県 3 校 (看護 1、水産 2)	和歌山県 1 校 (看護 1)
秋田県 1 校 (福祉/工業 1)	島根県 2 校 (水産 2)
山形県 2 校 (看護 1、デザイン 1)	岡山県 3 校 (看護 3)
福島県 1 校 (水産 1)	広島県 1 校 (看護 1)
茨城県 1 校 (看護 1)	山口県 3 校 (看護 1、水産 1、福祉 1)
埼玉県 2 校 (看護 1、デザイン 1)	徳島県 1 校 (看護 1)
千葉県 2 校 (看護 1、水産 1)	香川県 3 校 (看護 2、水産 1)
神奈川県 1 校 (水産 1)	愛媛県 1 校 (水産 1)
富山県 4 校 (看護 1、調理 1、農業 2)	高知県 2 校 (看護 1、水産 1)
石川県 1 校 (看護 1)	福岡県 2 校 (水産 1、農業 1)
山梨県 1 校 (工業 1)	熊本県 1 校 (工業 1)
岐阜県 1 校 (工業 1)	大分県 1 校 (水産 1)
静岡県 1 校 (水産 1)	鹿児島県 2 校 (看護 1、水産 1)
愛知県 5 校 (看護 2、水産 1、工業 2)	沖縄県 1 校 (水産 1)

専攻科がない都道府県 (公立、私立含む) 栃木県、群馬県、長野県、滋賀県

- ・全国の高校のうち看護学科の約 8 割、水産学科の約 6 割に専攻科が設置されている
- ・看護、水産、工業の他に農業、自動車整備士、介護福祉士、保育士、調理師の養成課程もある

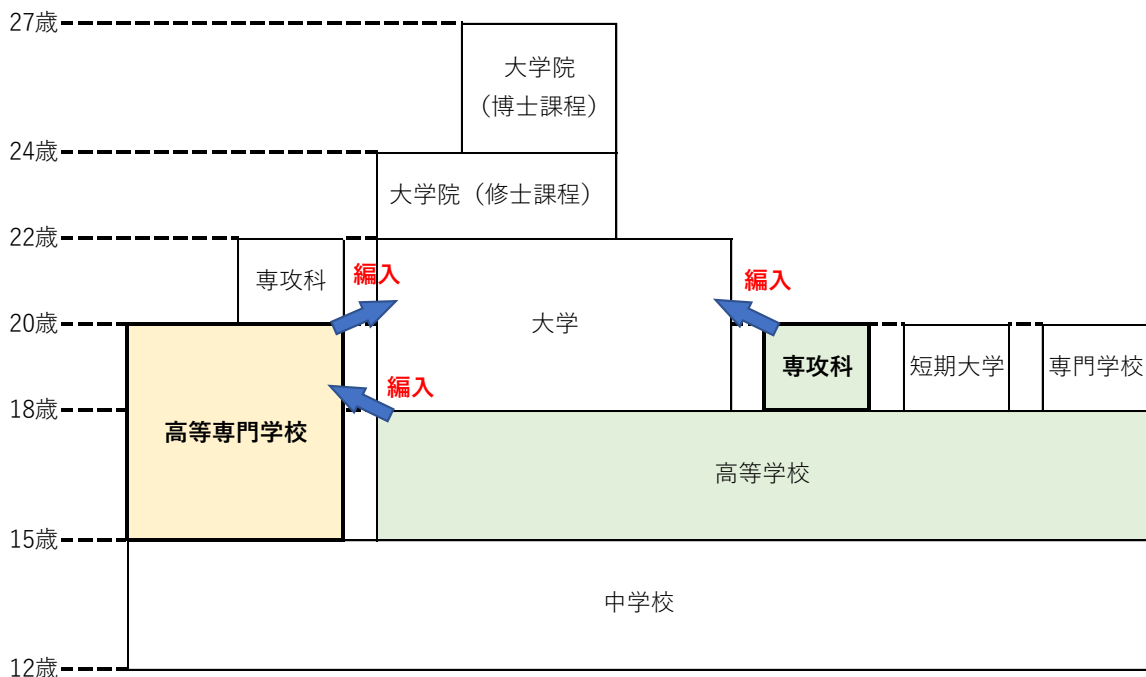
高等専門学校（高専）と高等学校専攻科の比較

高校教育課 高校再編推進室

	高等専門学校（高専）	高等学校専攻科
学校数	58校〔国立51、公立3、私立4〕	135校（分校含む）〔公立68、私立67〕
修業年限	5年（商船は5年6月）	1年以上
学位・称号等	準学士	大学等の入学資格
大学への編入学	あり	あり（修業年限2年以上など一定の基準）
所轄庁	文部科学大臣	都道府県
設置がない都道府県	埼玉県、神奈川県、山梨県、佐賀県、滋賀県（令和10年県立高専開校準備）	栃木県、群馬県、長野県、滋賀県
教育の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・5年一貫教育 ・大学などと同じ高等教育機関に位置付けられている ・工業系または商船系学科が大半 ・卒業後進路は就職約6割、進学（大学編入や高専の専攻科進学）4割 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師や3級海技士など高校3年間だけでは取れない国家資格の取得を目指す ・工業系高等学校専攻科では企業での即戦力として活躍できる人材の育成を目指す

※令和5年度現在

高等専門学校（高専）と高等学校専攻科の位置づけ



※簡略化のため、上図は教育機関相互における全ての編入学の関係を記載しているものではない。

講師紹介

1. 職・氏名

国立大学法人 鳴門教育大学
教員養成DX推進機構長
大学院学校教育研究科特命教授

ふじむら ゆういち
藤 村 裕 一



2. 略歴・主な役職・活動等

公立学校教員，行政職，東京工業大学大学院社会理工学研究科内地研究員等を経て現職。

首相官邸の「教育再生実行会議」初等中等教育WG委員，「デジタル化タスクフォース」委員として，今後の日本の教育改革の在り方について大所高所から検討を進め，多い時は月2，3回ペースで文部科学大臣らと今後の教育の在り方について協議してきた。

高校教育関係では，広島県の依頼で全寮制グローバルリーダー育成県立中等教育学校「広島叡智学園」の設立や，札幌旭丘高校の単位制高校化，宮崎県の専門高校改革・学科間連携の助言，岡山県立高校・名古屋市立高校の次世代型教育の助言，各県のスーパーサイエンスハイスクール・スーパーグローバルハイスクールの助言等をしてきた。

文部科学省では，「中央教育審議会デジタル学習基盤特別委員会」や「COREハイスクール・ネットワーク構想事業」企画評価会議委員や「就学援助事務システム標準化検討委員会座長，教育DXを検討する「教育データの利活用に関する有識者会議」座長代理など，文部科学省・総務省・経済産業省・デジタル庁・特許庁・NHK等で数多くの教育の改革・教育の情報化関連委員会で，数多くの座長・座長代理・委員を務めている。

自身体においては，北海道から沖縄県まで全国各地の都道府県教育委員会・市町村教育委員会の教育改革，教育振興基本計画の策定，教育の情報化・情報教育，授業改善・教育改革，生徒指導改善等の助言に入っている。学力日本一の秋田県の教育改革，いわゆる学力向上マニュアル改訂の助言に2024年度も20回入ることになっている。

身近なところでは，NHKの朝のニュース「おはよう日本」でニュース解説を行ったり，民放のバラエティ番組に出演したりもしている。

第2回安曇野総合技術新校(仮称)再編実施計画懇話会 グループディスカッションについて

テーマ

本日の講演を聞いて考えたことについて共有

総合技術高校について

- ①理解が深まった(わかった)こと
- ②疑問に思ったこと
- さらに知りたいと思ったこと

グループディスカッション

話しやすい雰囲気づくりのための 4つのお願い

- 「自分の発言は3割、傾聴を7割の割合で」
- 「良いアイデアを出さなければと思わない」
- 「相手の話は途中でさえぎらない」
- 「他の人の意見を否定しない」

* ルールを大切にしながら積極的なご意見をお願いします

「安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会」のスケジュール（案）

高校再編推進室

年度	月・日	懇話会 校地検討会議	内容
令和5年度	1月15日 (月)	第1回懇話会	<ul style="list-style-type: none"> ○「県教委より説明」 ・実施方針、再編整備計画【三次】の説明
令和6年度	5月24日 (金) 、 年5回程度 開催予定	第2回懇話会	<ul style="list-style-type: none"> ○目指す学校像 ・高等専門学校、高等学校専攻科について ・総合技術高校について（全国の事例） アドバイザーによる講演会
		第3回懇話会 以降	<ul style="list-style-type: none"> ○目指す学校像 <予定> ・学校・学びの紹介（現在の各校の取組みなど） ・グループディスカッション
		進捗状況に応じて開催	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;"><意見交換項目></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校像、新校の学び ○設置課程 ○活用する校地・校舎 ○募集開始年度 ○募集学級数 </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> 教育委員会定例会で「再編実施基本計画」を決定 </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> 統合事件案を県議会で同意 </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> 新校準備委員会を中心に 校名、学校運営、地域協働、進路、生徒会、校歌・校章など細部にわたり検討 ⇒ 懇話会で意見交換 </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> 議会同意後、新校開校まで随時、年3～4回程度開催予定 </div> <div style="text-align: center;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; background-color: #0056b3; color: white; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 新校開校 </div>